

2019 SUPER FORMULA

JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. **7** 鈴鹿サーキット
決勝 10月27日(日)
 天候: 晴れ コース状況: ドライ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権第7戦決勝が、鈴鹿サーキット（三重県鈴鹿市）にて開催された。

このレースが今シーズンの最終戦となり、チームとしても締めくくりのレースになるよう万全の態勢で臨んだ。

#38 石浦宏明 6位 #39 坪井 翔 10位



最終戦のレースウィークが、予選・決勝共に、ドライコンディションで迎える事がうれしく感じるほど、今季は雨に翻弄されたシーズン。最終戦決勝は、ドライで気持ち良く戦える舞台が整った。

朝の8時10分より行われた35分間のフリー走行は、38号車石浦が15位、39号車坪井は11位。決勝のセットを確認し、戦略を立てる材料とした。

正午に迫ると太陽が顔を出し秋晴れに恵まれたが、若干暑さも感じるほど。そんな中、午後2時決勝がオンタイムでスタートした。決勝は、43周、または90分のタイムレースとなる。

今回は、2台の戦略を分けることにし、石浦はソフトタイヤ、坪井はセーフティカーが入ることを鑑み、ミディアムタイヤでスタートした。また、7周回以降でない、スタートタイヤと別のタイヤに交換できないというレギュレーションが設定されていた。

38号車石浦は、20番手と最後尾スタートからオープニングラップで14位まで上がり、順調にポジションを上げ、7周回を過ぎミディアム勢のピットインが落ち着いた時点の9周目には4位を走行し、そこからブッシュする。トップとの差は、14秒～15秒で推移。30周で3位になると、31周目でピットイン。8位でコース復帰した。ミディアムタイヤに履き替え1分43秒台で走行を続ける。その後もハイペースを維持し、最終的に最後尾スタートから6位入賞。納得に行く走り最終戦を終えた。





13番手グリッドの39号車坪井は、ミディアムタイヤでスタートすると集団に埋もれた感がある中、少しずつポジションをあげて行く。7周でミディアム勢がピットに向かう中、8周目に9位に上がった時点でピットイン。17位でコース復帰した。その後、ソフトタイヤでステアアウトしていた7台全車がピットインをすると11位まで上がった。終盤、右の後輪に異常が生じバイブレーションが強くなった。原因は不明だが、どうにか走行。ファイナルラップで、前を走る車両がガス欠によってスローダウンしたことから10位でチェッカーを受けた。

2019年シーズンは、ドライバーズランキングは 38号車石浦10ポイントで13位、39号車坪井12ポイントで12位、チームランキングは22ポイントの7位で終えた。

クルマとタイヤのスペックが新しくなった今シーズン、非常に厳しい結果でシーズン終えることになった。来季の為に、きっちりチームを立て直した新たな気持ちで挑戦をしたい。今シーズンもたくさんのご声援・応援に感謝致します。ありがとうございました！



ドライバー #38 石浦 宏明

「決勝は坪井と戦略を分けることを決めました。自分は、ソフトタイヤで追いつけ、坪井はセーフティカーを想定し、ミディアムタイヤでスタート。自分としては、1つでもポジションを上げて行くことを目標としました。スタートがうまく決まり、ミディアムタイヤ勢をオーバーテイクしました。自分の近くにソフトタイヤを装着したクルマが2台居ましたが、そのクルマよりも前に行くことと決め、それもクリアして行きました。ミディアム勢が7周が終わるところでピットに向かったため、そこから追いつける作戦でハイペースで攻めました。それが功を奏して6位入賞となりました。

ハイペースで走れるクルマを作ってくれたチームに感謝したいと思います。今シーズンは、表彰台に上がることができないという過去にない噛み合わないシーズンでした。今回は、予選で失敗さえしなければ良い結果が得られたのではと考えると、しっかり反省をしなければと思います。そして、またその反省を次に活かして頑張りたいと思います」

ドライバー #39 坪井 翔

「最終戦は、ミディアムが多いのかなと思ってグリッドでソフトタイヤに換えてしまおうかと思いましたが、ミディアムタイヤでスタートしました。結果だけでいうとミディアムは外れたのかなと思います。7周でみんながピットに向かっていたのですが、自分の目の前のクルマも向かったためわざと1周遅らせてピットに入りました。この8周目をもっと速く走っていたら、追いつかれたのかなと思います。しかし、良いペースで走ることが出来たので、3号車の山下選手に追いつきました。しかし、右の後輪に異常が生じバイブレーションがひどくなり、タイムが落ち始めました。それでもう戦えなくなりました。タイヤが異常を起こした原因は不明です。ルーキーとして参戦した今シーズンは、学ぶ年だと思いました。苦しいシーズンでしたが開幕戦からポイントを獲得出来たり、表彰台に上がったこと、雨の富士は速さを見せられたと思っていますし、たくさん学んだ年でした。予選でQ3に進むことができず、前からスタートが出来なかったということが課題ですが、エンジニアとそのたびに、正解を見つけることができました。わからないままだと前へ進むことができません。来年以降は、結果を求められると思うのでしっかり戦いたいと思います。苦しかったけど、濃い一年でした」



**監督 立川 祐路**

「38号車の石浦に関しては、戦略もうまく行ってポジションも大きくジャンプアップ出来ました。入賞もできたので、スタートのポジションを考えると最善の策を取ることが出来たと思っています。39号車の坪井は、セーフティーカーを想定してミディアムタイヤを選択しました。しかし、セーフティーカーも出ませんでしたし、タイヤに不具合も出てつらいレースとなってしまいました。結果が出せず残念です。今シーズンは、チームにとって非常に厳しいシーズンでした。オフシーズンに立て直し、またチャレンジしたいと思います。今シーズンもチームを応援していただきありがとうございました！」

RESULTS/RANKING**正式決勝結果（上位10台）**

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	16	野尻 智紀	HONDA HR-417E	TEAM MUGEN	1:14'24.627
2	37	N.キャシディ	TOYOTA Biz-01F	VANTELIN TEAM TOM'S	2.532
3	5	福住 仁嶺	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	3.833
4	19	関口 雄飛	TOYOTA Biz-01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	6.254
5	1	山本 尚貴	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	18.744
6	38	石浦 宏明	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	22.129
7	17	塚越 広大	HONDA HR-417E	REAL RACING	31.628
8	20	平川 亮	TOYOTA Biz-01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	32.101
9	3	山下 健太	TOYOTA Biz-01F	KONDO RACING	32.830
10	39	坪井 翔	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	45.204

**ドライバースタンディング
（2019シーズン 上位5名+抜粋）**

Pos	No	Driver	Point
1	37	N.キャシディ	36
2	1	山本 尚貴	33
3	64	A.パロウ	26
4	16	野尻 智紀	24
5	3	山下 健太	21
12	39	坪井 翔	12
13	38	石浦 宏明	10

**チームスタンディング
（2019シーズン 上位5チーム+抜粋）**

Pos	Team	Point
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	50
2	VANTELIN TEAM TOM'S	48
3	TCS NAKAJIMA RACING	28
4	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	27
5	TEAM MUGEN	25
7	JMS P.MU/CERUMO INGING	22